

Title	共同研究講座・協働研究所を基盤とする人材育成 (2) : 大阪大学・島津分析イノベーション協働研 究所のREACHラボプロジェクトの事例紹介
Author(s)	秦, 茂則; 田中, 敏嗣; 飯田, 順子
Citation	年次学術大会講演要旨集, 37: 73-75
Issue Date	2022-10-29
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/18591
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のも とに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

共同研究講座・協働研究所を基盤とする人材育成（２）

～大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所の

REACH ラボプロジェクトの事例紹介～

○秦茂則（大阪大学） 田中敏嗣（大阪大学） 飯田順子（島津製作所／大阪大学）

１．はじめに

IT 技術を中心とした急激な技術進歩、平均寿命の延伸による就労する期間の延長などを背景に社会人における再教育の必要性が指摘されている。特に我が国では仕事に係る再教育への参加率が主要国と比較して低いことから、労働生産性の改善の観点からも重要な課題である。これに関連して、経済産業省は今年度から、企業等が大学・高等専門学校等の高等教育機関において自社が必要とする専門性を有する人材の育成を図るための講座等を設置することを目的として費用を支出する際に、当該費用の一部を助成する制度を開始している。

本論では大阪大学における共同研究講座・協働研究所におけるこれまでの人材育成の取組をサーベイするとともに、新たな取組として 2021 年から始まった大阪大学大学院工学研究科設置の大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所を基盤とする REACH ラボプロジェクトについて紹介する。

２．大阪大学の共同研究講座・協働研究所における人材育成の取組

大阪大学の共同研究講座・協働研究所の効果は、①企業の資源（人材、資金）を研究に活用、②企業の支援により人材育成・教育の幅が拡大、③企業を通じて社会と直結すること、が指摘されている（中野：2015）。このうち人材育成について、共同研究講座・協働研究所に企業側から特任研究員として派遣、あるいは招へい研究員として共同研究に参加しながら社会人ドクターに入学し、学位を取得する例が多数あることが報告されている（田中：2017）。

また、実際に共同研究講座を設置している企業からの評価として、高村他（2016）は共同研究講座を人材育成・交流の場として積極的活用している事例を紹介している。その中で、講座に属する企業の若手研究者は、大学との連携により企業の中だけでは得られない経験を重ねることで、研究に対する姿勢やモチベーションに好影響があるとし、企業での基盤・先端研究を担ってきた中央研究所機能が縮小している現状では、共同研究講座が企業内の研究人材育成機能の一部としての役割を果たすと指摘している。

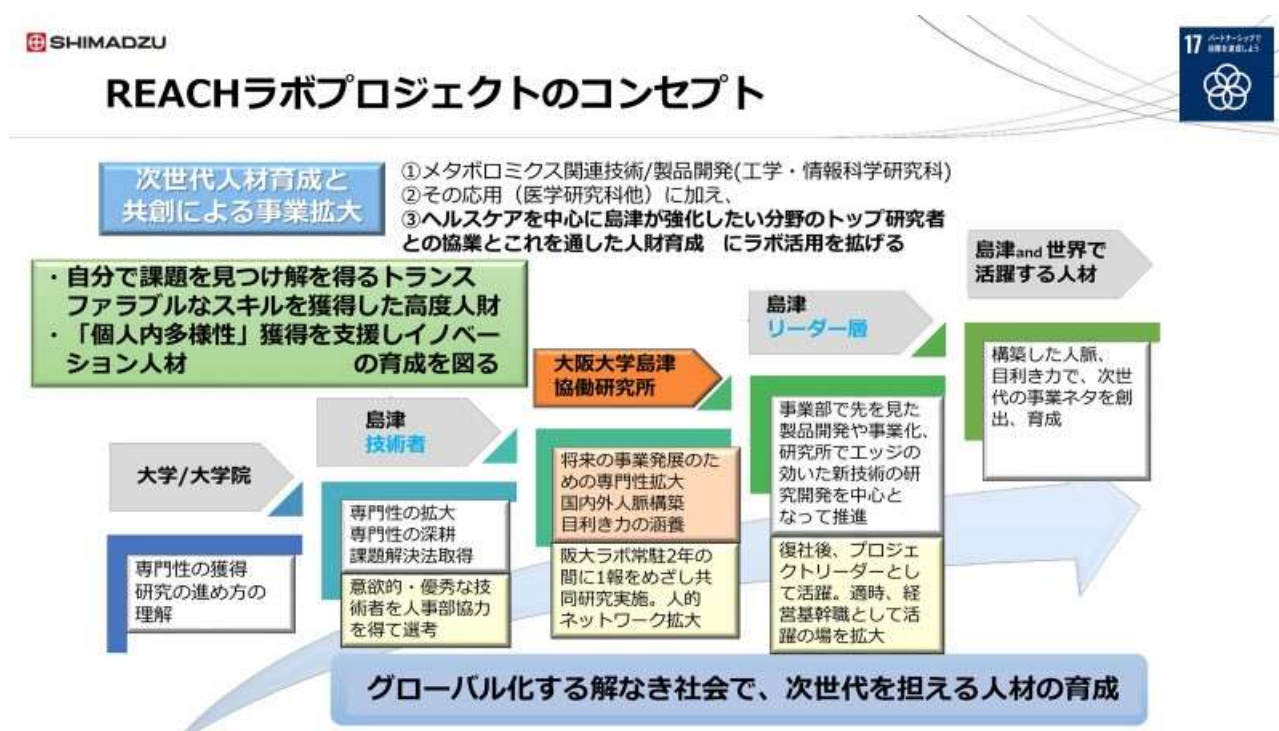
一方、学生に関し、吉川（2015）は、ある企業との共同研究講座の共同研究に参加した学生が卒業後に当該企業に就職し、その後当該共同研究講座に招へい研究員として派遣されて、大阪大学の博士課程で在籍している事例があることや 2006 年からの 2015 年までの間に大阪大学の共同研究講座・協働研究所の研究に参画した学生（のべ 340 名）のうち、当該共同研究講座・協働研究所の設置企業に就職した学生の割合が 13.8%になることを明らかにしている。

3. 大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所の事例

先述のような取組に加えて、共同研究講座・協働研究所を企業の戦略的事業分野における人材育成に活用する取り組みが大阪大学・島津分析イノベーション協働研究所（以後、島津協働研究所）で始まっている（大阪大学、島津製作所）。

島津協働研究所で開始した「REACH*ラボプロジェクト」は、同社の30歳前後の若手技術者・研究者を主なターゲットとして博士号取得の支援を通じ、「新たな専門性の獲得」、「国内外の人脈構築」につなげることを目標としている。本プロジェクトでは、島津製作所社員が大阪大学大学院博士課程に入学し、島津協働研究所内に開設する「REACH ラボ」を研究拠点として2～3年後の博士号取得を目指すこととなる。在学中は島津製作所の事業に密接に関わる研究テーマに指導教員らとともに取り組み、学位取得後は社内に戻って研究成果の事業化・社会実装に従事する。具体的には、初年度の2021年度は1名、2022年度は3名が大阪大学大学院博士課程に入学している。

※REACH =Recurrent & Re-skilling Academia and Industry Collaboration for Higher Education



参考文献

大阪大学 大阪大学と島津製作所による「REACH ラボプロジェクト」を開始

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2021/7/0701> 2022年4月15日アクセス

高等教育機関における共同講座創造支援事業（経済産業省）

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/koutou_kyouiku_kikan_niokeru_kyoudoukouzasousyutu.html

2022年9月6日アクセス

島津製作所 大阪大学と若手研究者・技術者の選抜教育を開始博士課程に社員を派遣、グローバル人材への成長を支援

https://www.shimadzu.co.jp/news/press/no_qu98frynsdjeo.html 2022年4月16日アクセス

高村藤寿,太田順子,西澤泉,吉灘裕,共同研究講座を通じた産学連携の高度化—産業界からみたその特徴と成果— 産学連携学 Vol.13, No.1, 2016

田中敏嗣,共同研究講座・協働研究所による産学連携の展開,研究・イノベーション学会年次学術講演要旨集,32 pp.862-863, 2017

中野節,吉川秀樹,田中敏嗣,共同研究講座制度 10 年の歩み 産学連携学, 12(1), pp.10-16, 2015

吉川秀樹,大学からのオープンイノベーション,第 8 回大阪大学共同研究講座シンポジウム要旨集,2015